

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。当校は明日24日（火）で80日間の2学期を終えます。いつもあたたかいご支援に感謝するとともに、新年も引き続き、ご指導賜りますようお願いいたします。今回は、次の3つを掲載いたしました。

①子どもたちへのきらっと光るあたたかい声

○中学部の生徒へひと言 ～十小5, 6年生へのレクチャーから～

☆三施設における中学部の存在意義

②キラッと輝くエピソード

○ほほえみの会クリスマス会」で盛り上げる十中生徒

③本校の教育活動

○自分の生活に学びを生かす

【その1】コツコツと繰り返すことの大切さ ～小学部1年生「個別学習」から～

【その2】万が一へのそなえ ～12/12（木）中学部「おぢやそなえ館」～

【その3】教室での学びをぜひ家庭で生かして！

～12/4（水）エコクリーンセンターへの校外学習より～

○拡大主事会③の結果 ～令和7年度の教育活動の方向性～

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武

令和6年12月23日



チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して⑱ -1223校長たより-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～



上松 武

1 子どもたちへのきらっと光るあたたかい声

○中学部の生徒へひと言 ～十小5, 6年生へのレクチャーから～



- ・毎年この時期になると、中学部3年生は十小6年生へ床拭き清掃を、中学部2年生は十小5年生へ食器洗いを、それぞれ手順を説明しながら手本を示して、お互いに自分の学びを深めています。
- ・中学部の手順の説明や手本を見聞きした十小5, 6年生の感想を載せました。

## 【6年生より】

- 壁があった時には向きを変えて拭き直すことを、家でもやってみたいです。期末大清掃で雑巾の使い方を下学年に教えたいです。
- 家の年末掃除でやってみようと思います。清掃の時に下学年にも広めたいです。
- 中学部の人に教えてもらった下がり拭きや雑巾の絞り方を生かして、期末大清掃に取り組みたいです。

## 【5年生より】

- 中学部のみなさんが少しだけ洗剤を付け、お皿の裏や中まで洗ったり、箸を一本一本丁寧に洗ったりしていて憧れました。とても丁寧にやっていたので分かりやすかったし、分からないところがあって質問した時に優しく教えてくれてうれしかったです。「うまいね」「すごい」と言ってくれたのもとても自信につながりました。ありがとうございました。
- 食器を洗う時、いつも内と外しか洗っていなかったのが、今日茶碗の裏の部分まできれいにできてよかったです。それに、私が皿洗いをするときは水を出し過ぎていたのを水を使わない時でも水を出してしまっていたので、これからは気を付けていきたいです。ふれあいの方たちが実践しながら説明してくれて、とても分かりやすかったです。
- 今回のレクチャーで食器の拭き方や洗い方がよく分かりました。特に家でも気をつけたいと思ったのは、洗った後の食器の置き方です。今までは一番下のみぞのところに斜めに置いて乾かしていたので、真似したいと思いました。ふれあいの皆さんの実演が上手で、とてもわかりやすかったです。
- 今まで家でお皿洗いをやったときは泡が立ち過ぎていたけど、今日3滴でやってみたらちょうどよかったので、家でやる時も大体3滴でやるようにしたいです。ふれあいの皆さん、詳しいアドバイスをありがとうございました。教わったことを家でもやっていきたいと思います。
- ・ 中学部の生徒にとっては、後輩の視線を全身に浴びながらも年長者のプライドをもって「自分との闘い」に挑むことに大きな価値があります。一方、十小の児童には、中学部の姿から一生懸命やることの大切さや、責任やプライドをもってやり切ることの尊さを学んでくれたと信じています。
- ・ これから年末の大掃除の時期になります。両校の子どもたちには、まずは学んだことを「お手伝い」として家庭でしっかりと発揮してもらいたいです。

## ☆三施設における中学部の存在意義☆

- ・ 昨年度、今年度と県内外から学校視察訪問を数多く受けています。そんな中、「中学部がこの学校にある意義は何ですか」という質問をよく受けます。
- ・ 私は、次のように回答しています。

「小学校や中学校で思うように自分の力を発揮できない現実を抱えたまま転入学してきます。そのような生徒たちに、小学生のために譲ったり手助けをしたりお手本となってくれたりする機会をたくさん用意します。最初は素直に取り組みません。でも、頼られると少しずつやるようになってきます。きっと『こんな俺でも頼りにされている』実感をいただくようになるんだと思います。このような気持ちになることができることに、中学部の存在意義があります。」
- ・ 中学部の3年間でこれまでと違う自分を発見し、自分に自信をもち、何かにチャ

レンジしてみようと考え、そんなエネルギーを蓄えるための場がふれあいの中学部だと私は思っています。

## 2 キラッと輝くエピソード

### ○ほほえみの会の「クリスマス会」で盛り上げる十中生徒



- ・今年も十日町中学校特別支援学級の生徒と山本校長先生がクリスマス会の出店を自主的に運営してくれました。
- ・このように生徒が参画するようになったのは、山本校長先生のお考えが大きく影響していると思っています。
- ・「中学校の生徒は皆さんと一緒に回ってもあまり楽しめないのではないか。むしろ、みんなを楽しませる側で参加した方が十分楽しめる。そんな力が彼らにはあります」と1年前おっしゃり、現在に至っています。
- ・「これまで〇〇だったから」という前例踏襲

襲ではなく、子どもたちにとって**最良の学習環境**は何か考え抜いて、たどり着いた答えを一緒にやってみる。そんな山本校長先生の姿勢に感銘を受けました（着ぐるみや小道具を身に付けて人を楽しませる姿勢にも感銘を受けました）。

## 3 本校の教育活動

### (1) 授業改善

#### ○自分の生活に学びを生かす

#### 【その1】コツコツと繰り返すことの大切さ ～小学部1年生「個別学習」から～

- ・先日、小学部1年生の教室をのぞいたら、人形が着ている服のボタンの開け閉めをしている学習を目にしました。
- ・普段いろいろなものに視線を奪われがちな児童がボタンから視線を外さずに、穴に通していました。



- ・用いている支援具は実物サイズだし、繰り返しできるし、実際に衣服の着脱の際に同じ動作をするので、身の回りのことを身に付ける支援具としては、この上ないものです。
- ・上手にできた時の満面の笑みが自信に満ちています。コツコツと繰り返し取り組むことの大切さを伝えてくれています。
- ・繰り返し取り組みますが、**先生方の支援は「引き算」**されています。すなわち、できるようになってきたら、一緒にボタンをつまむことを止めたり、言葉による指示ではなく指差しだけというように、直接的

な支援から間接的な支援へと減らしていっています（＝「引き算」していく）。

- ・常に「今の支援でいいのか」「この支援は必要なのか」を考えながら、指導支援に当たることが、「自分の生活に学びを生かす」きっかけになります。



## 【その2】万が一へのそなえ ～12/12（木） 中学部「おぢやそなえ館」～



- ・令和6年（2024年）1月1日、能登半島沖地震が起こって、1年が経過しようとしています。子どもたちの記憶に新しいことと思います。
- ・十日町市を始め近隣の小千谷市や長岡市川口地域などには、これまでの自然災害を教訓にした学習施設が充実しています。
- ・冬休みに入る前のこの時期に、学校以外の場所で万が一災害に遭遇した場合、**自分の命は自分で守る**ことを学習したのは大変意義深いことです。生徒たちの感想をいくつか紹介します。

### 【生徒の感想】

- 「地震があったときにどうしたらいいかクイズ」が、とてもためになりました。
- 自分の命は自分で守らなければいけないことが分かりました。
- 地震の怖さを再確認できました。
- 館内のクイズに全問正解でき、プレゼントをもらったので嬉しかったです。  
(プレゼント＝パンフレットやアルミシート)

## 【その3】教室での学びをぜひ家庭で生かして！

### ～12/4（水）エコクリーンセンターへの校外学習より～



- ・中学部は毎月学校周辺に出掛けてクリーン活動をしています。回収したゴミは分別して処分していました。
- ・その学習を発展させ、左の写真のように、両手に持ちきれないほどの分別したゴミを直接十日町市のエコクリーンセンターへ持っていき、どう処分されるのかを学習してきました。
- ・家庭で出るペットボトルや発泡スチロールのトレイなどをご家庭で分別しておき、買い物の際に所定の場所に入れることができると最高ですね。
- ・ぜひご家庭でひと言、声をかけてください。  
**「買い物に行くけど、ペットボトルや空き缶も出す?!」**

## (2) 業務改善

### ○拡大主事会③の結果 ～令和7年度の教育活動の方向性～

課題	令和7年度の方針
■学校間（同世代間）交流	<p>■学校間（同世代間）交流は、学校数や交流の目的、居住地校交流との兼ね合いなどの点から実施の方向性を定めて、各校に周知。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程に位置付けられていることを前提とした同世代間（学校間）交流を行う。</li> <li>・小学校1～2校、中学校1校程度と交流する。</li> <li>・居住地校交流を兼ねない。</li> </ul>
■交流活動	<p>■小学部は、実態や目的に合わせて参加する活動を精査する。また、ふれあいから働き掛ける活動も企画</p> <p>■中学部の交流活動は、同世代や上の世代（高等部・地域の大人）との交流に重点を移行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今やっている活動」のうち、清掃・食器洗いレクチャーは廃止する。</li> <li>・生徒の実態を考えながら「今やっている学習活動」を生かした交流活動を行う。（商店街訪問発表会に十小児童を招待）</li> <li>・中学部のカーニバル缶バッジ制作は継続</li> <li>・中高連携活動での体験活動を充実させ、より連携が強化されるように働き掛ける。</li> </ul>
■宿泊体験学習（自然教室）	<p>■小学部の宿泊体験学習（自然教室）は、実施する学年や時期を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加学年は3～5年 3年児童は、宿泊しない。</li> <li>・6年は、7月に修学旅行に行く。</li> <li>・旅行先は、中学部での旅行との兼ね合いを見ながら近隣県（群馬・長野）を候補とする。</li> <li>・事前学習は一部宿泊体験学習と合同で行うことが可能。</li> </ul>
■PTA親子活動と授業参観	<p>■授業参観、PTA親子活動を半日日程で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前前半に授業参観、後半に親子行事を行い、昼食を食べずに下校する日程とする。</li> <li>・PTA三役会で提案し、意見をいただいた上で決定。</li> </ul>
■親善スキー大会への参加	<p>■親善スキー大会への参加は希望制とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応する職員に対しては、回復やCSボラの活用により、負担軽減を図る。</li> </ul>
■修学旅行	<p>■中学部のR7年度の修学旅行については、2・3年生合同の旅行を希望し、経費などを具体的に検討しながら決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東方面で新幹線利用の旅行代金の見積りを早急に依頼し、検討する。</li> <li>・中2年生の旅行積立が十分ではないので、集金の調整が必要。</li> </ul>

- ・わいわい会議で挙げた課題について、3回の拡大主事会と2回の臨時学部会を経て、上記のような方針を出すことができました（上表は一部抜粋）。1月7日（火）の職員会議後、令和7年度の方針や学校経営方針を説明する予定にしています。
- ・行事の精選や業務の削減などに努めますが、本丸は「授業改善による『働き方改革』」です。「支援の引き算」「主体性の育成」「自分で考えて行動」などをキーワードに進めていきたいと考えています。

辰年から巳年へ

今年度のしめくくりを「お陰様で」の気持ちで！

